

バミューダプラン加入者 各位様

私共は、ここに今回の STI バミューダプランの監査報告並びに個人別積立金情報の監査報告の発行が遅れている事に関して、最新の情報をお知らせしたいと思います。

英国自治領のバミューダ政府の法律において私共は皆様にプランの監査報告書並びに個人別積立金の監査報告を用意する事、並びに監査人が監査を遂行するに当たり必要な作業を行う事を要求しており、監査終了時には、個々の監査報告を皆様にお知らせする事を求めています。

今回の監査の遅れに関しては、3つの要因があり、その3つの要因は全て関連しております。最初の遅れに関しては、私達に因を發するものです。すなわち、増加する監査に掛かる経費を制限する為に、私達が管理する全てのプランに関する監査の為に十二分な準備時間（これは当初予定をしていた1月下旬に準備を終わるべきところを、4月上旬に準備を終わる事になりました）を取る事となりました。

この準備過程において、私達は、監査法人であるデロイト&トーチより、バミューダプランにおける、投資運用の正しい評価をする為には、追加出資評価価格情報が必要である事を指摘されました。

思い出して頂きたいのですが、2007年にバミューダプラン加入者の皆様は、子供達への学資金支払額の下落懸念に関して、プランにおける投資選択肢を拡大する賛否に対しての投票を行いました。その結果、私達の投資運用管理者である、HSBCプライベートバンクは、プランのポートフォリオの一部を代替投資先に移行させましたが、その後の世界的な市場衰退があり、私達は、代替投資先よりの適切な評価価格について投資運用管理者（HSBCプライベートバンク）より詳しい情報を得ることを監査法人より求められました。

私達の管理が及ばない状況下における上記情報を得る為に遅れが生じました。しかしながら、私達は、6月上旬には、監査法人に対して監査を実施する為の全ての情報を用意して渡し、その翌週より、監査作業は開始され、7月24日までに終了をする予定でした。

この監査期間中に私達は、3つ目の遅れの原因となる事象を得ました。すなわち、監査法人（デロイト&トーチ）における担当会計士が呼び出され、この結果、監査業務の進行に遅れが生じました。この最後の遅れの要因は、監査の実際上の実施において、遅れのドミノ現象を引き起こしました。すなわち、監査作業を管理している OEF 基金の担当マネージャーが7月

の末に夏休みを取る事を計画しており、その間、監査作業が出来ないため、監査法人の担当者は、7月末終了予定から8月初旬終了予定に変更しました。

今日現在では、私共は監査法人であるデロイト&トーチュより、監査作業の大半は完遂している事並びに、今週には監査報告の概要を確認できると連絡を受けています。

監査法人による最終的なサインをされた監査報告書は数日以内に受取る予定であり、受取り次第、監査報告書を含む完全な報告書を皆様のお手元にEメールでお届けする予定です。

差し当たり、加入者の皆様の為に、個々の元金の収支を確認すると同時に過去数年間の支払い処理を確認する立場にあります。市場における下落傾向がプランにおける長期的な運用に対して、どのような影響を与えるかが明確で無い為、私達としては、皆様に学資金支給額に関しての展望を提供する事はできません。

私共がバミューダプランの加入者の皆様にお伝えしたい事は、ほぼ1年前に発生した世界的な市場下落傾向が発生した時にお伝えしたのと同じで、皆様の積立金運用金は常に保障をされているという事です。同時に皆様が加入時に同意されている学資金支給契約に基づく、学資金支払いもまた保障をされているものです。向こう数年の間、学資金支給額は、当初、期待をされていた金額よりも下回る額となります。しかしながら、確実ではありませんが、長期的には学資金支給額レベルは、回復するものと考えています。

この多くは、国債金利の長期的な見通し並びに世界的な金融市場における回復の規模と速度に依存するものと考えます。

敬具

トム F オショネシー、公認会計士

代表

STIプラン

オショネシー教育基金